

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105784
法人名	医療法人 北吉田診療所
事業所名	グループホーム しょうせきあいあい
所在地	愛媛県松山市千南吉田町1872-2
自己評価作成日	平成22年2月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

主治医が毎日往診し、看護師が24時間在籍し、安心・安全に努め、急変時等にも迅速に対応できるようにしている。希望に応じ、看取りまで行っている。また、地域や家族の関わりを継続しながら、本人の残っている能力を活かしながら生活していけるよう支援している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域内には高齢者が多く、事業所での行事に参加することを楽しみにされている方もあるようだ。法人で行っている勉強会に、地域の方達にも参加いただけるよう回覧板でお知らせされたり、町内の役員会や清掃には、職員が積極的に参加されている。読み聞かせや散髪、漫才のボランティアの方の訪問や年2回、小学生のコーラス隊が歌を聞かせてくれたり、秋には、近くの幼稚園の運動会を見に出かけておられる。
会議は、民生委員や老人会会長、地域の消防団の方等にも参加いただき、併設の小規模多機能事業所と合同で開催されている。会議は、市内、周辺の市町のグループホームや小規模多機能事業所にも声をかけ、参加いただいている。事業所では、職員の腰痛予防のために「持ち上げない看護、抱えあげない介護」に向けて「ノーリフト」をすすめておられ、自動で退位変換できるエアーマット等を会議の参加者に体験していただいた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム しょうせき あいあい

(ユニット名) あいちゃん

記入者(管理者)

氏名 松本 光司

評価完了日 平成 22 年 2 月 19 日

自己評価及び外部評価表あいちゃん

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域の利用者様が、住み慣れた地域で、これまでの生活習慣をできるだけ変えることなく穏やかに、にこやかに生活できるよう理念に含め、日々の実践を大事に取り組んでいる。 (外部評価) 3つの「経営理念」をもとにして、1月にユニット毎に職員全員で話し合い「介護理念」を新しく作成された。介護理念のひとつに「地域とのふれあいを大切にします」と挙げておられ、地域と交流する機会を作ること等に積極的に取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内の行事には積極的に参加し、そして地域の商店・理髪店を出来る限り利用し、利用者様が地域生活を楽しめるよう支援に取り入れている。 (外部評価) 地域内には高齢者が多く、事業所での行事に参加することを楽しみにされている方もあるようだ。法人で行っている勉強会に、地域の方達にも参加いただけるよう回覧板でお知らせされたり、町内の役員会や清掃には、職員が積極的に参加されている。読み聞かせや散髪、漫才のボランティアの方の訪問や年2回、小学生のコーラス隊が歌を聞かせてくれたり、秋には、近くの幼稚園の運動会を見に出かけておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や家族会を開き、松山市の事業所やご家族の方々の参加を広く呼びかけている。また見学者などをすすんで受け入れ、支援の有り方や現在の介護情報などを提供している。	

自己評価及び外部評価表あいちゃん

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1度運営推進会議を開いている。今までの実践や行事など事業所として取り組んできたことを報告し、意見を頂いている。この会議録は全職員に回覧され、それぞれのユニットで実践に生かす方向で検討している。</p> <p>(外部評価) 会議は、民生委員や老人会会長、地域の消防団の方等にも参加いただき、併設の小規模多機能事業所と合同で開催されている。会議では、介護サービス情報の公表の結果報告をされたり「みんなで、いっしょに食べましょう会」と題して、きざみ食やとろみを使ったメニューの試食会をされたこともある。会議は、市内、周辺の市町のグループホームや小規模多機能事業所にも声をかけ、参加いただいている。事業所では、職員の腰痛予防のために「持ち上げない看護、抱えあげない介護」に向けて「ノーリフト」をすすめておられ、自動で退位変換できるエアーマット等を会議の参加者に体験していただいた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市町村へはケアについて相談を行ったり、研修や運営推進会議等を通じて協力関係を築くよう努めている</p> <p>(外部評価) 市の担当者は、運営推進会議時、利用者の状況について質問されたり、「地域の幼稚園との関わり」について「事業所に来てもらうようなことはできないか」とアドバイスをいただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 医療的に拘束しないと生命の危険がある方にはご家族に了承を得ている。その他の利用者様には拘束はしていないよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 医療的な視点から継続的な拘束が必要になった場合は、医師である代表者が利用者・ご家族に説明をして「承諾書」をいただくようにされている。現在、両手にミトンを着用しているような方があり、2週間に1度、医師である代表者とご家族、職員で話し合い、ご家族や職員が見守れる時にはミトンを外し、拘束する時間が短くなるように取り組まれている。</p>	<p>利用者一人ひとりが自由で安心できる生活を支援していくためにも、今後さらに、職員のスキルアップに努められ、工夫やアイデアで細やかな生活支援のケアに努力していかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表あいちゃん

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者本位の考え方を浸透させ、利用者様への呼び捨てなどの不適切な言葉づかいを含め、身体的・精神的な虐待は行われていない。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会など参加し、理解している。グループホームにおいては、現在はないが必要となれば関係者と話し合い、活用し支援していく予定である	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけ説明し、納得の上サインをしてもらっている。契約時には分からなくても不安や疑問点があれば都度説明し、理解・納得できるよう努めている	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会では、親族を始めとする各関係者が出席し、意見・要望を述べられる機械となっている。またご家族は自由に来所しているので、必要であれば現場職員に要望・意見を伝えている。 (外部評価) 運営推進会議に参加いただいたご家族から「ホームでの生活状況がよくわかった」と感想をいただいた。会議事録は、ご家族にも送付して事業所の取り組みを知っていただけるよう努めておられる。職員が分かるように、各ユニットの入り口に写真と名前を掲示するようになっていた。ご家族より「外出の機会を増やしてほしい」との要望もあり、事業所では、少しでも外出の機会が持てるよう努力されている。	ご家族個々の気になることや心配なこと等を具体的に聞き取ったり、知りたいことについての情報提供や、定期的にご家族と話し合うような機会を事業所側から積極的に作っていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表あいちゃん

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			個々に意見を聞くなど、提案を運営に反映している	
			(外部評価)	
			日々の申し送り時等に、職員は、管理者に意見やアイデアを出しておられる。医師である代表者は、頻回に事業所に来られ、職員とお話するように努めておられる。介護現場の労働環境の改善に向け、奨励金等も活用して「ノーリフト」に向けて取り組まれており、「介護でどのようなことがきついか」職員にアンケートを取って、介護機器を多く導入された。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			賞与支給に際しては、賞与査定を行い、職員個々のモチベーション維持に努めている。また定期的なユニット移動でマンネリ化を防止している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			機会があれば職員を研修に参加させ、また週に1度法人内研修を開き、個々の介護力向上に努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			同業種の事業所か会する意見交換会には常に参加し、積極的に意見交換をしている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			新しく加わる利用者様には特に気を配り、本人の好みなど家族から聞きながら、新生活へスムーズに移行できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表あいちゃん

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族を入居させること的心情を深く組み、家族の思いを常に心にとめて話を聞いている。不安材料を極力少なくして安心感を与えられるよう努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>初期の個別支援では、新しい生活スタイルに慣れることを優先し、そのためにはご家族の協力を得るようにしている。また以前利用していた事業所があれば情報を得て分析し、支援に反映している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様と対等な立場に立つように心がけ、何気ない日常の会話を大切にしている。そして食事やレクでは心情を共感することを大事にしている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>定期的に食事会を開催したりなどご家族が来所する機会をできる限り増やして、ご本人と一緒に過ごす時間を大切に考えている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人に年賀状などを作ってもらい、外部との接点が途切れないようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族とお墓参りや美容室に出かける方もある。職場の同僚だった方が訪ねて来てくださったり、一緒にサークル活動をされていた方が訪ねて来られることもある。</p>	

自己評価及び外部評価表あいちゃん

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 集団生活ではあるが、個室であるため利用者同士の関係が悪化することはない。もしあったとしても職員の介入で長引かないようにしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) セミナーや運営推進会議への参加の声かけなどを行い、相談や支援していきけるよう努めている	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの話や思い出は傾聴し、必要な支援については職員同士で話し合い、できる限り実現できるよう検討している。	
			(外部評価) 入居時、事業所では、ご本人の「好きな活動」「趣味」等を書いていただく「ご入居申込者状況申告書」をご家族に記入していただいている。皆の中ではお話されない利用者の方も、入浴時等、職員と2人になるとお話されるようなこともあり、職員はよく聞き、センター方式の書式を用いて情報収集をされている。	職員が知り得た利用者個々の情報をもとにして、ご本人らしい暮らしが続けられるような介護計画作成につなげていかれてほしい。
		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者様のこれまでの情報は個人ファイルでまとめていつでも読み返すことができる。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日、行動記録とバイタル測定を行い、職員が共有して支援に入っている。	

自己評価及び外部評価表あいちゃん

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			シフト勤務であるが、支援者の会議を開くよう努めている。そこで個々の課題を確認してカンファレンスも職員がすべて目を通して確認している。	
			(外部評価)	
			介護計画書は、職員が支援する内容がひと目で見わかるような事業所独自の様式を用いて作成されている。3ヶ月に1度モニタリングを行い、支援する内容の見直しをされている。	ご本人がよりよく暮らすための計画について、ご本人の思いや意向を踏まえて、ご本人主体の計画をご家族とも話し合い、ご要望等も聞き取りながら計画を作成していかれてほしい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の様子は個別に記録し、変わったことがあればシフト間の申し送りで伝達し、特に大切なことはユニットの申し送りノートに記載し、全員のサインをもらうようにしている。	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			必要に応じ、グループホームだけでなく、他のサービスを利用が得きるよう支援している	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			外出等には家族や公共物を利用し本人の力を発揮する場を設けている	

自己評価及び外部評価表あいちゃん

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価)	
			主治医の往診が毎日あり、症状の変化に的確に対応し ている。急変時にも主治医・スタッフの素早い対応、 的確な処置により健康管理に努めている	
			(外部評価)	
			ご本人・ご家族の希望で、すべての利用者は、法人の 診療所にかかっておられる。代表者である医師は、毎 日往診に来られており、利用者個々の健康状態や病状 についてご家族には直接医師が説明されている。必要 に応じて訪問歯科を利用できるようになっている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価)	
			常に看護師は勤務しており、介護職員は利用者の体調 などを常に報告し、看護師の指示によって医療的ケア を行っている。	
			(外部評価)	
			医療機関と連絡を取り合う等行い、情報交換・相談し 早期退院に努めている	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			医療機関と連絡を取り合う等行い、情報交換・相談し 早期退院に努めている	
			(外部評価)	
			終の棲家として看取りまで行っている。重度化した場合は様 態などを家族に知らせ、急な体調の変化においては救急病院 と連携をとり、最善の医療を尽くしている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			終の棲家として看取りまで行っている。重度化した場合は様 態などを家族に知らせ、急な体調の変化においては救急病院 と連携をとり、最善の医療を尽くしている。	
			(外部評価)	
			事業所は、利用者を最期まで看とる支援に力を入れて取り組 まれており、ご本人とご家族の望む支援に努めておられる。 ホームに2週間宿泊してご本人を看られたご家族もあり、事 業所では、ご本人やご家族の気持ちも大切にしながら支援さ れている。調査訪問時、心電図モニター等、医療的措置を行 いながら終末期を過ごされている利用者の方もあった。	

自己評価及び外部評価表あいちゃん

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会や救急救命講習などを開き、医師や看護師にも勉強会に参加してもらい指導してもらっている	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得、災害時の対応の仕方を教わっている。また、自己啓発で勉強会にも取り入れ、防災意識を高めている (外部評価) 夜間の火災を想定して、出火場所を変えながら、訓練を重ねておられる。新しい職員が増えた際には、3ヶ月間、毎月消防署の方が来てくださって、避難経路のアドバイスや搬送指導をしていただいた。又、2階からの外階段を使った避難の仕方等の指導いただいた。	事業所では、終末期を過ごされている方が多い。又、利用者個々の状態等の変化もあり、訓練を今後も重ねて、いざという時に利用者全員の安全を守ることができるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。さらに地域との協力体制作りについても、具体的にすすめていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個室であり、それぞれの生活スタイルを維持し、プライバシーの確保に努めている。そして言葉かけも丁寧に行ない人格尊重を心がけている。 (外部評価) 管理者は、利用者へかかわる際には「必ず声かけをしてから行う」ように指導されている。新しい職員も多いため、今後さらに「利用者への接遇についての勉強会にも力を入れていきたい。」と話しておられた。	職員の利用者への声かけや介助等、対応について、ご本人の立場に立って点検したり考えてみるような機会にされてはどうか。又、運営推進会議時やご家族等にもご意見をいただきながら、事業所のさらなるケアの質向上に向けて取り組みをすすめていかれてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望は出来る範囲で叶えようと努めている。ユニット内の過ごし方にも特に規制することなく自由な生活を提供している。	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事などの大まかな時間帯の設定はあるが、それは個々のその時の状態によって対応するよう努めている。またその他の時間帯は本人の好む過ごしを大切にしている。	

自己評価及び外部評価表あいちゃん

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣類は本人やご家族が用意してくれている。更衣するときは、季節・天候にあった衣類の組み合わせに替えるようにしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様の嗜好などを考慮して、毎日献立を変えている。職員と話をしながら食事をしている。個人の個性に沿って準備や後片付けはしてもらっている。	
			(外部評価) 昼食と夕食の前に口腔体操に取り組んでおられ、歌を3曲歌ってから食事されている。事業所で食事作りをされており、献立は、職員が決めておられるが、行事時の食事やおやつは、利用者の希望をお聞きして採り入れておられ、ご家族とおはぎを作る機会等もある。ご家族からの差し入れ等は、おやつ時間等にお出ししている。調査訪問時、食後には、職員が洗ったトレーを拭いておられる利用者もあった。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事・水分の摂取量は毎日記録している。そして週に4日は専門の調理師が料理を栄養・見た目を考えて作ってくれている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行っている。入れ歯も洗浄し口腔内生成を良好に保っている。	

自己評価及び外部評価表あいちゃん

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) トイレの回数を記録し、それぞれのパターンを把握している。そしてそれぞれの自立度に合わせた支援をしている。	
			(外部評価) 職員の声かけにて、トイレ誘導されている。利用者によっては、身体的な負担や安全に考慮して、誘導等の無理強いはしないようにされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の回数を記録している。排便のない日が続くと看護師に報告し、排泄を促す薬等を利用し便秘予防に努めている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 大まかな入浴の日程は組んでいるが、個々の状態や希望に沿って柔軟に対応している。	
			(外部評価) 事業所では、ノーリフト「高機能リクライニングシャワーキャリア」「釣り上げリフト」等を導入されており、介助する職員の負担は少なくなったようである。現在、週2回、午前と午後のお好きな時間を選んでもらい入浴を支援されている。毎日入浴を希望される利用者もあるが「高齢なこともあり」控えてもらうこともある。介護度が重度の方は、シャワー浴や清拭で身体の清潔を保たれている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 車椅子を利用しているなど疲れやすい方には、適度に休息をとってもらっている。そして夜間は静かな環境と快適な室温を保ち安眠できる環境を作っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表あいちゃん

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書を職員が見えるように個別の袋に入れている。食後等指示通りの服薬が出来ているか確認している	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクレーションや行事を行う際には個々が楽しめるよう雰囲気作りをしている。また定期的に来所下さるボランティアのレクレーションも皆楽しみにしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気候や体調を見ながら四季折々のイベント参加に努めている (外部評価)	介護度重度の方も体調等をみながら外に出るような機会を増やしてみてもどうか。利用者個々が行きたい場所や懐かしい場所に出かけてみるような機会も作ってみてもどうか。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる人は小額を持ち、ジュース等を買っている人もいる。管理できない人については、家族の依頼により事務所で管理している方もいる	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状等自分で記入して出す等、少しでもできるように支援している。電話は、かけなければ家族からかけてもらい、話をするなどしている	

自己評価及び外部評価表あいちゃん

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>毎日清掃し清潔を保っている。空調管理をし、季節に応じた室温になっている。刺激となるものがあればカーテンや仕切りなどで遮断できる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所内は「安全のため」もあり、履物を履かないで過ごすようになっている。トイレも、履物を使用しておられないが、使用後は、職員が必ず点検されているようである。天気の良い日には、窓を開けて換気されている。介護度重度で医療が必要になった利用者で目が離せないような場合は、ご家族と相談して、居間のスペースについ立を立てて、ベッドを置き過ごされていた。</p>	居間の環境について、利用者の立場に立って、居心地のよい空間作りについて工夫できる点はないか考えてみてほしい。利用者や相談されたり、運営推進会議で意見をお聞きしたり、又、ご家族にも具体的に聞いてみる機会を作ってほしい。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>それぞれ個室であるため、自分の居場所を確保できている。気のあった利用者同士はリビングでお話できる環境になっている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>それぞれの個室には、家族の写真や使い慣れた日用品・衣類などを家族の方が用意してくれている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>2ヶ月に1度、居室で利用者ご本人とご家族と一緒に食事をする機会を作っておられる。転倒を防ぐために床にカーペットを敷き、布団で寝るようにされている方もある。テレビを置かれている方や、ご家族との写真を飾っておられる方もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>共有の場所は見守り易い構造になっている。そして個室には定期的に訪室して利用者の状態を確認している。また自分の部屋を迷い易い方の部屋のドアには目印をつけて、視覚的に分かり易い工夫をしている。</p>	